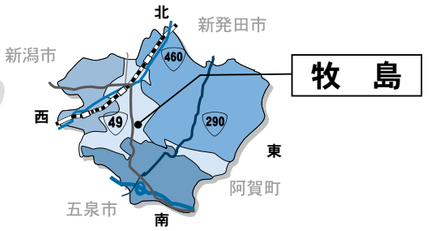
地元住民に聞いた

私の住む地域（ところ）

●今月は牧島（まきしま）です●

牧島営農研修センター竣工記念（昭和58年12月）



■世帯数　21
■人　口　92
（1月1日現在）

市役所から市営バス寺社線で約20分〔牧島・消防車庫前下車〕

阿賀野川の支流域

市のほぼ中央に位置する牧島は、国道49号を安田方面に向かい、堀越地域の手前を左折。最初に見えてくる、周囲に水田が広がる農村地域です。

地域一帯は、古くは阿賀野川の支流域で、四方八方に中州ができ島のように見えたことが牧島の地名の由来となったのではないかといわれています。明治9年には、日常生活が一体で地縁関係が深かった牧島村と橋本村が合併し、現在の牧島が誕生しました。

牧島営農研修センター

昭和58年12月、牧島営農研修センターが竣工しました。大きさは約36坪、大・小広間の間に厨房がある使い勝手が良い施設です。地域にとっては待望の施設で、国の補助事業を受け建設しました。もともと地域には集会施設はなく、寄り合いや相談事などは、個人の家を持ち回りで借りていました。年々、地域活動が盛んになるにつれ、「自由に使える施設がほしい」と建設に向けた話し合いが行われました。施設の場所や費用、規模など、さまざまな多くの意見が出され何度も相談を重ねたそうですが、最後は住民の固い絆でまとまりました。

施設が完成したころは、子ども会や各種親睦団体などの活動の場として、また将棋盤やカラオケ機器なども置かれ、地元住民の親睦を深める交流拠点となっていましたが、時代の流れにより利用数も少なくなってきています。

力を合わせて

賛の神などの地域行事は以前に比べ少なくなりましたが、共同作業として行っている側溝掃除や農業用排水路の草刈り、共有林の間伐作業などは今も変わっていません。農家も非農家も皆で力を合わせて行っています。このほか、地域周辺のクリーン作戦や消雪パイプの点検なども行い、住み良い環境づくりに取り組んでいます。

また、昭和60年代ころには、地域を挙げて良質米の多収穫を目指した農業技術の向上に励み、町や農業団体が主催する生産出荷共進会で、優秀賞を何度も受賞しました。

子どもや若者の減少で不安の声も聞かれますが、牧島には昔から支え合い助け合ってきた力があります。地域の鎮守豊島神社（大山祇神社）の維持管理もみんなで協力し行っています。これからも、良き伝統を受け継ぎ、地域の誇りであるまとまりの良さを大切にしていきます。

（取材協力＝樋口正文さんほか）

青は藍より出でて藍より青し（荀子）

「藍」とは染料に使う藍草のことで、藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となることから、この関係を弟子と師匠にあてはめ、弟子が師匠の学識や技術を超えるという意味のことわざとして知られています。この「出藍の誉れ」は、スポーツや芸術・文化などの師弟関係においてだけでなく、経営者とその後継者との関係においても、周囲から寄せられる期待として表れてきます。

「阿賀野市産業経済振興基本計画」の策定に向けた基礎資料とするため、昨年3月に一般住民、農家、事業所を対象にアンケート調査を実施しました。経営上の問題について農家に尋ねたところ、「後継者不足、高齢化、労働力不足」と回答した方が最も多く、最大の経営課題になっていることが分かりました。

実はこれを裏付ける調査結果が平成22年農林業センサスにありました。市の農業就業人口の平均年齢は67・8歳で、5年前と比較して5歳も上昇しました。後継者がいないため経営者の高齢化が進んでいる実態が分かりました。この「後継者がいない」というのは誤った認識で、正しくは「後継者を育ててこなかった」ことが問題であったと考えています。

私も農家の子（長男）として生まれましたが、物心が付く頃になると、親からは勤め人になるようにと繰り返し言われました。その頃の父は、近くの上場企業の工場で働いていました。当時の日本経済は高度経済成長期にあり、会社に勤めていれば、毎月決まった給料が現金収入として入り、年に1回しか入らない農業収入と総額で比較しても数倍の開きがありました。親が私に勤め人になるよう勧めたのも、当時の経済情勢や家計の事情からすれば無理からぬことだと理解しています。

「出藍の誉れ」となる後継者を育てるには、経営者が自分の職業に誇りと自信を持ち、後継者にその魅力と将来の可能性をしっかりと伝えることも大切です。特に、農業に関しては、行政としての早急な支援も必要であると考えています。

市長エッセー

一言市栄（いちごいちえ）

天野　市栄

難易度★★☆☆☆

広報クイズ

広報あがのを読みつくせ！

あなたに挑戦
今月は「紙面クイズ」

さあ、「広報あがの」をすみずみまで読みつくそう！　全部読めば、必ず答えがみつかるはず。

問題1

今年も「休日申告納税相談」を開催します。2月26日（日）といつでしょうか？

①2月19日（日）
②3月　4日（日）
③3月11日（日）

問題2

今年度の集会所の禁煙・分煙の状況調査の結果、施設内禁煙を実施している自治会は何％でしょうか？

①2．9％
②10．2％
③45．3％

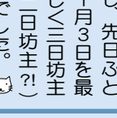
問題3

平成17年に発足した消防団女性部「阿賀さくら」。現在の女性団員数は何人でしょうか？

①6人
②8人
③10人

★1月号の正解は次のとおりです。★

★1月号の「本物のごずっちょ」は④番



※にせごずっちょはここが違っていました。

《応募総数50通　正解38通》
ありがとうございました。

★1月号の当選者

- P.Nレーザービームさん　・P.Nえんぴつさん
- P.Nカーネーションさん　・P.N雪だるまさん
- P.Nゴロッチョさん　・P.Nくま吉さん
- 鈴木柊哉さん　・原啓子さん
- P.N髪結いの亭主さん　・鈴木将生さん

☆応募の方法など☆

上の3つの問題の答えの番号と2月号の感想などを書いて、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、ハガキかFAX、電子メールで2月17日（金）必着で応募ください。ペンネームや匿名での掲載を希望する人は、その旨をお書きください。（氏名も必ず書いてください）正解者の中から抽選で毎月10人に500円の図書カードをプレゼントします。

ＦＡＸ：0250-62-0281
電子メール：kikaku@city.agano.niigata.jp

クイズの答え

郵便番号・住所
氏名・年齢・電話番号
今月号の感想などをお書きください。

959-2092
阿賀野市役所
広報広聴係　行

広報あがのでは、皆さんからのご意見ご感想をお待ちしています。その他、地域の話題や珍しい出来事、自慢のイラストなど、どしどしお寄せください。

【編集後記】

▼今年の初取材は、市民元旦マラソン大会。当日は、青空が広がり太陽が日を差す好コンディション。スタート前は緊張していた参加者の皆さんも、ゴール時には皆々額に大きな汗を輝かせ、爽やかな笑顔を見せていました。走り終えての達成感や充実感で溢れている皆さんの姿を見ているうちに、私も元気をもらい幸せな気分に。新しい1年の良いスタートとなりました。今年もよろしくお願いします。（ど）

▼広報に携わる者としてなんとか文章力をアップしようと「天声人語書き写しノート」なるものを購入。これは新聞のコラムを書き写すノートで、毎日書き写していくと語彙が豊富になり文章の構成力やリズムが身につくらしいのです。元日から書き写しを開始し、先日ふとノート手にとると、なんと1月3日を最後にノートは真っ白。まさしく三日坊主（2日は新聞休刊日だから二日坊主?!）で終わってしまっていたのでした。🐱

▼先月号で「オプティマルヘルスを目指します」と言いながら、早々に体調を崩してしまいました。復活し、健康のありがたさを実感中です。幼いころ、風邪をひいて寝込むと必ず食べたのが母特製「すりおろしたりんご」。以来、風邪や体調不良になると「りんご」が食べたくなります。すりおろしたりんごは〝薬〟のようなもので、〝母のぬくもり〟を感じる一品です。今回もりんごのおかげで元気になった❀でした。❀